

令和2年度第3回徳山高等学校学校運営協議会 記録

I 日 時 令和3年2月4日(木)午後1時55分から午後3時40分まで

II 場 所 徳山高等学校会議室

III 参加学校運営協議会委員

委員13名中9名が参加。

IV 学校参加者

校長、副校長、CS活動推進員

本校全日制教頭、本校定時制教頭、徳山北分校教頭、鹿野分校教頭、事務長

V 会議概要(進行は副校長)

1 報告・協議

(1) 学校評価に係る事項の報告

・全日制・定時制・徳山北分校・鹿野分校それぞれの学校評価書案について学校評価アンケート・授業アンケートの集計結果、地域連携の取組、諸活動等に基づいて説明。

(2) 取組・評価に対する提言・意見交換

<本校全日制>

委員：アンケートを見て今年度は、コロナの関係・ICTの導入など大変なことが多かったがよく対応していると感じた。また、生徒と先生の評価の違いがある項目については、よく見ていく必要がある。

生徒記述では、生徒の生の思いがでており、校舎の設備がひどいということが分かった。生徒のためにも、予算の問題などあると思うが、考えていただきたい。将来的に、仕組みとしてのSSHがなくなったとしても、理系志望の生徒を集められるよう努めていただきたい。

委員：中学校の立場として、本校も学校評価の時期で大変参考になった。コロナ禍のこうした御時世だからこそ大切なのは、情報発信。HP等、最新の情報をアップしていくことが保護者や地域の安心に繋がると思う。

ICTを活用した授業改善は、今後の小・中・高のいずれにおいても対応が必要な課題である。そうした中、徳山高校には先導的な取組を期待している。

今回、色々な行事がなくなっていった中、子ども達が工夫したり、考えたりする機会が増えたことで、例年とは違う力を伸ばしていった。コロナ禍の中で、学校教育として目指していくもの、改善できるものがあると私自身も考えた。子ども達の発想や、子ども達にとってどうなのかという視点で、学校全体を見ていくことが必要だと感じている。

SSHの取組については、今回の推薦入試の倍率も圧倒的な高さに驚いているが、それだけ期待が大きく、魅力があるということである。子どもたちと話をする中でもSSHの話題があり、こんなことをやってみたくて夢が膨らませている子が多くいる。今回SSH課題研究発表会の案内を見たが、これは是非、中学生にも見せたい。そうした機会があれば、ますます科学に夢を持つ子ども達が増えてくるのではないかと思った。

厳しい言い方になるが、10月の学校公開時に参観した際、授業中のマスクの着用率が低かったのには驚いた。子ども達の登下校のマスクの着用もそうだが、私たちは、地域の方にもコロナ禍でどう対応するかということ、子どもの姿を通してしっかりと示していかないといけないのではないかと考えており、徳山高校の生徒の姿に不安感を感じた。登下校のマスクも含めて、地域社会の一員として、小・中・高・大人もみんなで取り組み、地域全体として

意識を高める必要があると感じた。

委員：この1年で生活、学校は一変した。GIGAスクール構想もコロナ禍により一気に進んだ。すでに準備が進められていると思うが、機器や情報の管理、ICT活用の支援等、対応していただきたい。

学校：御指摘いただいたとおり、マスクをしない生徒もいる。一層細かく指導していきたい。

ICTの活用については、4月当初新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業の中、オンライン授業の試みは先頭を切って行った。現在進められている1人1台タブレットの配付について、本校にもすでに1000台のタブレットが届いており、初期化作業を進めているところである。今年度は、タブレットの導入に向けて各教科から代表1人ずつを集めワーキンググループをつくり、授業での活用の研究も進めた。この成果についてはリーフレットとし、中学校・高校等に配布する予定である。ぜひ、御覧いただきたい。

SSHの取組は、昨年度の第2期までは理数科中心、理数科教員中心という一部のものだったが、今年度からの第3期においては学校全体、生徒・教員全体に広がりを持たせていく。なお、SSH課題研究発表会開催について、3月16日に本校で行う予定である。その中で、2年次生が課題研究「科学技術リテラシーⅡ」の成果を、1年次生が総合的な探究の時間を活用した「PBL」（課題解決型学習）55チームの成果をそれぞれ発表する。理数科の生徒は、入学して間もなくから課題研究を学んでおり、そこで身につけた探究活動の手法を普通科の生徒に教えながら一緒になってPBLに取り組んでいる。1年次生の中間発表が先日行われたのだが、コロナ禍における運動会の種目についてなどを研究・考察したものなどもあった。3密を避ける必要があるので、現在のところ本校生徒・関係者のみとしている。委員の方で御希望があれば御参観いただきたい。中学生の参観について今回は難しいが、今後検討したい。

〈本校定時制〉

委員：個人的意見だが、定時制があることで救われている生徒がたくさんいる。本来、働くことが前提とされているが、病気などの理由で全日制に通えないなど様々な理由を抱えて登校している生徒がたくさんいる。そうした生徒に寄り添っていただき、感謝している。

委員：以前授業を見学させていただいた際、先生との距離が近く、生徒に寄り添っているということを感じた。寄り添っていただければ、生徒自身も認められているということを感じることができ、自己肯定感が育まれる。引き続き、良いところを伸ばしていただきたい。

〈徳山北分校〉

委員：授業を参観させていただいた時に、先生方がとても分かりやすい授業を準備・工夫されていることに感心した。アンケートを見ると生徒側もそう受け取っている様で、授業の進み方・内容など評価に表れており、先生の努力が報われていると感じた。ただ、1年生の評価が一番高く、2年、3年になると下がるのは、教科の内容も難しくなり、付いていけない子がでてくるからではないか。引き続き、熱心に指導していただきたい。

自分の記憶に間違いがなければ、以前学校評議員を務めていたときに見たアンケート結果と比べ、「先生から気軽に声をかけてもらえる。」「先生は自分のことを理解していると思っっている。」など、先生と生徒の関係が縮まり、評価も高くなっているように感じた。少人数の中でそれぞれの役割ができ、自己肯定感が高いということは、メリットである。これから募集停止ということで難しいことは多くなるが、学習面では問題はないように感じる。行事など、工夫が必要ではないか。

委員：募集停止ということで、モチベーションを保つのは大変だと思うが、生徒とのコミュニケ

ーションなど大事にしていきたい。コロナ禍で情報がなかなか伝わりづらいので、連絡を密にとっていただきたい。教科に関しては 評価の通りだと思うので引き続きお願いしたい。

<鹿野分校>

委員：生徒減少に加えコロナ禍の中、いろいろな取組をできることから行っている。自分も関わっている鹿野地域のボランティア清掃についても、第1回は中止となったが、10月の第2回は実施することができた。その際、鹿野分校の生徒も、土曜日にも関わらずたくさん参加し、地域の方々や小・中学生と一緒に国道沿いのゴミを拾うなど、地域の活動に積極的に参加してくれた。

第2回学校運営協議会の時、授業を少し見る機会があったが、個々に寄り添った分かりやすい授業だと感じた。少ない人数だからこそ出来ることをコロナ禍でも行っていてもらいたい。

学校：生徒も地域の方々と関わっていく中で、コミュニケーション能力・社会性を高め、伸ばして教育の質を上げていただいている。ぜひ、今後もお願いしたい。

(3) その他

- ・特になし